

富山大学

# 学園ニュース



特集 ■ 「卒業」

# 目 次

## 特集「卒業」

わたしの目から見た富山県人

わたしなりの富山県人論 .....	経済学部	森岡 裕	1
商人的性格 .....	工学部4年	遠山正和	2

### サークル特集

卒業される先輩へ .....	スキー部	渡辺一則	3
「～いざ歌わん若き日を♪我ら合唱団♪」 .....	合唱部	永井暁仁	4
先輩へ .....	邦楽部	東 恵美	5
バレー部の思い出を忘れないで .....	男子バレー部	宮森久美子	6

### 就職戦線異常あり

人文学部 .....	(人文学部の取り組み) 草薙太郎、(自分の行きたい企業を目指して) 籠浦由希子	7
教育学部 .....	(教員採用について) 山下三郎、(強い意志こそ教師への道) 遊道陽子、(面接試験) 曾出昌宏	8
経済学部 .....	(経済学部の現状) 居林次雄、(大学生として就職活動を行うこと) 岡田勝嗣	9
理学部 .....	(理学部の場合) 鳴橋直弘、(あきらめずに頑張っ！) 吉田直民	11
工学部 .....	(発想の転換) 山淵龍夫	12

## わたしの研究室

哲学・人間基礎論研究室(人文学部) .....	大國正明(哲学コース3年)	13
幼児心理学研究室(教育学部) .....	合田麻由美(幼稚園教員養成課程)	14
経済法研究室(経済学部) .....	大沢由香利(経営法学科4年)	15
地球進化学講座(理学部) .....	小西博美(地球科学専攻1年)	16
生物反応化学Ⅱ講座(工学部) .....	大窪栄範、渡辺真弘、福島和彦、山本陽一	17

## 留学生コーナー

思い出 .....	人文学部	田 培丹	18
日本と私 .....	経済学部	蘇 歴銘	19

キャンパスウォッチング(旧工学部のシンボル:門柱及びシャンデリア) .....	工学部	嶋尾一郎	20
---	-----	------	----

## 学生部だより

後期授業料免除について .....			22
-------------------	--	--	----

## 保健管理センターだより

健康診断は必ず受けましょう .....			23
---------------------	--	--	----

## トピックス

住んで10ヵ月目の神戸で 神戸大学理学部地球惑星科学教室修士課程1年 堀田暁子(富山大学理学部卒)			24
---	--	--	----

## わたしの目から 見た富山県人

### わたしなりの富山県人論



経済学部助教授 森 岡 裕

私が富山大学に着任したのが1985年ですから、今年で富山に来て10年ということになります。10年も住んでいるのだから富山について何か書けるはずだ、なのか、たった10年で書けるはずがない、なのかはわかりませんが、私なりの「富山県人論」を述べることにします。

富山とか富山県人について語られる時には、所得の高さ（「…日本一」）とか勤勉さ・きまじめさといったことがよく言われますが、今さら私がここでこのようなことを言っても面白くないと思いますので、個人的な経験にもとづいて話を進めることにします。

富山県人に関する私の印象は、富山の人は自己評価（富山に対する評価）について両極端に分かれるということです。まず第1のタイプは、富山というのが全国的に印象のうすい県であるという妙な自信を持っている人達です。このタイプの人達は、私が県外者だとわかると、こっちに来る前は富山がどこにあるか知らなかったでしょうとよくたずねます。そして話の終わりには、あなたのような若い人（今は私も立派なオッサンですが、こちらへ来たところは若かったのです）にはここは退屈でしょうと言われる。私は小心者ですし結果がこわいのでやったことはありませんが、このような質問に威勢よくハイと答えたらどうなるのでしょうか。

富山人「こっちへ来るまでは、富山がどこにあるか知らなかったでしょう。」

県外人「ハイ、全然知りませんでした。」

富山人「……。まあ、あなたのような若い人には退屈でしょう。」

県外人「ハイ、本当に退屈ですね。」

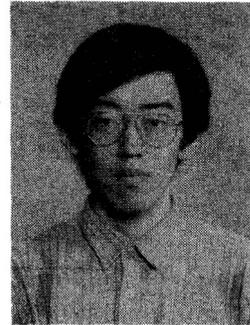
富山人「……」

勇気のある方は試してみられてはいかがでしょう。ついでに結果も教えていただけたらと思います。

第2のタイプは、タイプ1とは正反対で富山＝パラダイス派です。この人達は、富山のいいところをいろいろ教えてください。よくするのは、水、米、酒、魚がおいしいことや自然（立山、蟹気楼）の美しさです。前半の部分はよく理解できます。おいしい米や酒といったものは、富山の人達が苦勞して作りあげたものだからです。しかし後半については、性格の悪い私の心がつぶやくのです。「立山はあなたがたてたのですか」「蟹気楼はあなたが発明したのですか」。もちろん面と向かって言ったことはありません。これもどなたか勇気のある方にお任せします。

私の独断と偏見で好き勝手なことばかり書きましたが、ご容赦下さい。ゴングの助けをかりて、これで終わらせていただきます。

## 商人的性格



工学部

物質工学科4年 遠山正和

近代文明の発達によって、移動手段と通信手段が向上した結果、方言に代表されるようなその地方独特の文化が失われようとしている。しかし、その地方の持つ地理的、歴史的、気候的環境から形成される県民性は未だに残っている。

富山県は、県東部の立山連峰によって緯度が低い割に雪の降る地域であり、冬の間農業を営むことができない。また急峻な地形を流れる川はたびたび洪水を起こすために雪の降らない間でさえリスクを伴う。このような環境が収入を他の地方に求める越中売薬を生みだし、先用後利の実利性、故郷を離れて働く勤勉さに代表される商人的な性格を作り出した。

たとえば、現代においても、就業率、特に女性就業率の高さや、兼業農家の比率が高いことが勤勉な県民性を表しているといえる。また、貯蓄率の高さは勤勉だけでなく、不必要な出費をしない儉約の精神を身につけていることを表している。しかし、この勤勉と儉約によって得た財産を貯蓄しているだけであるならば、ただの吝嗇家であるが、子どもの教育や住宅の整備などの必要なものへの出費は惜しまないことがうかがえる。全国的

に見ても富山の進学率、持ち家比率はトップであり、また、1軒1軒の住宅の大きさは必要以上の大きさでつくられている。

これらの実利、勤勉、儉約の3つの性格は、商人的性格の良い方向への表れであるが、もう一方として事大的な一面を持つ。他人と意見が衝突したときにその意見に対して真っ向から反対しない。特に自分に不利益になるときは、自分が主張すべきことであっても発言せず、相手の意を迎えようとする。このような態度は卑屈なへつらいに変わることもさへある。だからといって自分の意見をすぐに変えるわけではなく、確固たる主張を持っていたとしても自分の利益のためにはそれを表に出さないだけである。この態度が富山県民をひどくあいまいで歯切れが悪いと思わせる。

このように、富山県民の性格は良くも悪くも越中売薬に代表される商人的性格であり、その実利性、進取の気性が戦後の近代産業を発展させ、また、勤勉さによって農業の衰退を最小限に止め、工業と農業を両立させた豊かな富山をつくってきたといえるだろう。

## サークル特集

### 卒業される先輩へ

(スキー部)



スキー部2年 渡辺 一 則

スキー部は今年9人の卒業生がいます。全部員数が30人弱ですから約4分の1に当たります。特に9人とも、個性派ぞろいですので人数以上に抜ける穴は大きいかもしれません。この9人の中には、大学院生の先輩が3人含まれています。足掛け6年間もこのスキー部に在籍していたのですから抱えきれないくらいの思い出があることとされます。他の6人の先輩も4年間の思い出は限りなく、名残は尽きないことでしょう。一昨年、昨年と僕自身も先輩方と共に汗を流し、時にチームメイトとして時に好敵手として、また目標として競い合い、私生活では良き相談相手となってもらい夜を語り明かしたこともありました。そんな思い出が今、胸をよぎります。先輩方にとってこのスキー部での思い出は、学生生活における掛け替えのない財産であり、ここで培った様々な経験は必ず社会に出てからも役に立つはずです。どうか元富大スキー部員として胸を張って新天地へ向かってもらいたいものです。

あまり教訓めいたことを書くつもりはありませんが、これから社会へと旅立つ方、大学院へ進学される方、どちらもどのような場面でも、常に柔軟性をもってのぞんでほしいと思います。そして友人を大切にしてください。「朋友はわが喜びを倍にし、悲しみを半ばにす」という言葉がありますが、いつになっても友人というものは大事なもの

です。スキー競技というと、個人競技として知られており、チームワークなど無いと思われがちですがとんでもありません。レース前、緊張でガチガチになっている時の友人からの「ガンバレ」の声や、自分の滑りに対するアドバイス、そして勝った負けたで互いに一喜一憂しあった事など、卒業される先輩方も一度は味わったことのある体験であると思います。そして恐らくその友人達は、大学生という身分柄、小中高校と通じて最も多くの時間を共有した人達でしょう。大学時代の友は一生の友と言われるのもそのせいかもしれません。とにかくスキーを通して、楽しさも苦しさも一緒に経験してきた仲です。サークルなどでは決して得ることのできない強い絆があるはずです。もし今、本人がそれを自覚していないとしても2、3年経てから分かる時がくるかもしれません。先程ことわざを述べましたが、次のような言葉もあります。「親友とは、日頃疎遠であっても苦しい時には必ず近くにいる、そんな友である」という言葉です。何か力になれる事があったら喜んで協力したいと思うので、どうか忘れないでいてもらいたいものです。

何はともあれ長い間このスキー部を先導し、盛り上げてくれたことを心から感謝したいと思います。どうもありがとうございました。

## ～いざ歌わん若き日を ♪ 我ら合唱団 ♪



富山大学合唱団代表 永井 暁仁

「～いざ歌わん若き日を♪我ら合唱団♪」でしめくられる富山大学の顔ともなる私達、合唱団をこの度卒業されるにあたって去っていかれる先輩方と共に作った思い出を振り返ってみようと思います。

昨年は、ここ近年の活動にも増して、大きなイベントをやりこなし、また栄誉ある年でした。みなさんの中にも記憶に残っておられる方もおられると思いますが、4月16日に行われた信州大学との黒田講堂での合同演奏会からまず振り返ってみましょう。1年にもわたる2大学の構成による実行委員の綿密なうち合わせ、そして富山と長野での合同練習・合宿の末、総勢100名を越える大合唱をこの富山で披露しました。7月には、中学校から大学そして一般の団体まで多くの合唱団が集まり、お互いに合唱の楽しさを味わい合うコーラスフェスティバルに参加しました。8月に入ると、1週間にもわたる夏期合宿でみんなの意志結束と合唱強化に専念し、9月には県コンクールの大学部門で金賞をとり、10月に行われた中部コンクールでは銀賞というすばらしい成績を残しました。しばらく中部コンクールでは、ここ数年大きな賞は御無沙汰だったので、銀賞の発表の時に「富山大学合唱団」と呼ばれた瞬間のみんなのあの喜

びにあふれた歓声が今もまだ耳に焼きついています。コンクールを終え、喜びにひたっている間もなく、10月の末には芸術交歓祭という北陸地方の大学が集まり合唱技術の交換を混じえての友達の環を広げる行事がありました。半年前から企画運営にとアイデアをしぼり、1週間前に迫ると毎晩のようにスタッフが集まり最終段階のうち合わせに熱を入れ、当日は壮大なイベントとなり、充実したものとなりました。4年生の方にも、司会を務めていただき、先輩方には感謝していますし、また先輩方にとっても良き思い出になったと思います。そして12月には、みなさんの記憶にも新しい第32回定期演奏会の開催です。卒業される先輩方にとっては、本当の最後のしめくくりともいえる場であり、歌いながら大学生活そのものといえた団活動の思い出が一気に甦っていただろうと思われます。今、この旅立ちの場におられるみなさんも、大学生活のあれこれがあふれんばかりに頭の中に広がっておられることだろうと思います。これを書いている私も、これが良き思い出の1つになりました。

社会人になられても、大学生活で培ったものをフルに活用して頑張ってください。

先輩バンザイ！

## バレー部の思い出を 忘れないで



男子バレー部 マネージャー  
人文学部 宮 森 久美子

4年生の皆さん、御卒業おめでとうございます。4年生の先輩が春季北信越大会を最後に引退されるまでに、数える程しか先輩と一緒に部活に参加できなかった私がこのような文章を書くのは申し訳ないような気もしますが……。

大学の部活動は、入部を決して強制されるわけではなく、入部は自分自身の意志であることは周知の事実ですが、だからこそ本当にバレーの好きな人間同士が集まり、同じ目標を追いかけられるのだということが、先輩方を見て本当に理解できたように思います。大会を目前に控えた練習中や試合の時の真剣で厳しい表情からは勝つための、目標を達成するための気迫を感じたし、反面、OB戦や紅白戦などの行事の時には先輩が勝ち負けに関係なくバレーを楽しんでおられる姿に、本当にバレーが好きなんだなと感じました。

4年の間には個人的にもチーム・部内全体においても様々な御苦勞があったことと思います。しかし、それらを乗り越えてこそ得られた多くの思い出もあると思います。先日の追コンでの先輩方

のスピーチでそれが改めて感じられました。大会にしても、部の行事にしても、その中での思い出の1つを誰かが話し始めただけで「あの時はああだったよね」と多くのことを思い出し、笑い合えたり、共通の思い出を持ち続けていられるということはとても素晴らしいことだと思います。4年という限られた時間を長いと感じるか、短いと感じるかは一人一人が違うのですが、バレー部でなければ得ることのできなかった思い出を忘れないで下さい。

様々な御苦勞を乗り越えて卒業していかれる先輩方を良い手本として、今後の部活動に励んでいきたいと思います。今回の春季北信越大会は富山開催ということもあり、バレー部一丸となって目標に向かって頑張っていきますので、これからも御指導よろしくお願いします。富大バレー部OBとしてバレー部を見守っていて下さい。

それでは4年間本当に御苦勞様でした。OB会などでお会いできる日を楽しみにしています。

# 先輩へ

(邦楽部)



邦楽部  
理学部 東 恵美

新歓発表会、七夕発表会の部内発表と十二月の定期演奏会を終え、残すところあと卒業演奏会のみとなりましたが、各発表会の度に4年生の方々からは、曲作りの姿勢や曲の完成度、個人レベルの高さなどを教えられ、ただひたすら感心するばかりでした。演奏だけにとどまらず、華のある御方ばかりでしたので、これから部内、学内ともに御姿を拝見できなくなるのかと思うと残念でなりません。まだ未熟なために、教えていただきたいことが多々残っているにもかかわらず、部を去ってしまわれることは非常に残念ではありますが、祝いの門出ということでひきとめるわけにもいかず、泣く泣く別れを認める次第であります。

これからの先輩方の未来が幸多きものでありますよう、心からお祈り申し上げます。

御卒業、おめでとうございます。



## 就職戦線異常あり

## 「人文学部の取り組み」

人文学部就職指導委員会  
副委員長 草 薙 太 郎



就職に関する説明会（平成7年2月1日）に学外講師（ダイヤモンド・ビッグ社学校広報企画課長 中村竹志氏）を招くと、講演終了後も講師を呼び止め質問する女子学生があり、人文122番教室に立ち見の出る盛況であった。「安定志向」が許されぬ昨今<sup>1)</sup>、12月に情報誌登録をすませ、3月までに自己分析、4月までに会社分析を完了せよという。一般職女子事務員の事務能力はコンピューター駆使能力であり（応募も電子メールでやらせる企業がある）企業は問題発見・解決能力を問うという。

卒論作成の調査能力、人間としての成長といった人文学部が教育目標としたことが活かされ、企業戦士になるのではなく自分の生き方を重視する態度があってよく<sup>2)</sup>、特に女性の場合、企業内教育を出産・育児終了後の社会復帰に逆に利用する観点があってよいとの指摘は新鮮であった。

各方面で指摘される内容でも、大学・企業を熟知したプロの口から学生に実感を持って語られることの大切さを実感した。

こうした説明会の回数を増やし対象学年を広げて就職指導を意欲的に行いたい。

## 注

- 1) 昨年せっきやく大量採用したNTTに応募しても安定志向を口にした学生は落ちた。人文で受かった女子学生の言——「自己推薦は『私は……』で書き始めない。女子はにこやかにしてキリッとすべきときはする」——これだけ意識が高ければ受かるだろうと講師と話した。
- 2) いわゆる有名企業に入ってもすぐ出向が待っている。トヨタで本来重役コースを歩むべき人間がリストラできられた例を講師は話した。

## 「自分の行きたい企業を目指して」

人文学部語学文学科・中国語  
中国文学コース4年 籠 浦 由希子



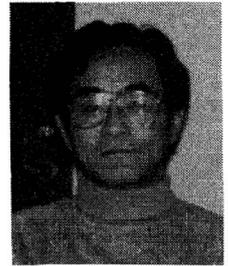
私が、この春から毎日通うことになった企業からの内定通知をもらったのは七月の中頃で、初めて会社説明会に出向いてから一カ月にも満たないうちに、私の進路は決まってしまうことになる。

四月頃から資料請求のはがきを何十通もだしてみたものの、実際に採用試験を受けたのは結局四社だった。たとえ就職難であっても魅力を感じない会社に行く気にはなれない。自分の求める条件に妥協せず、駄目ならフリーターにでも……という覚悟でとりくんだところ、幸運にも満足のいく会社に内定が決まったのだ。

こんなわけで、私の経験は今年就職活動をする方々にとって何の参考にもならないだろうが、アドバイスするとすれば合同企業セミナーというものはあまり意味がないという事を言っておきたい。あれに何度も足を運ぶなら、一度でも自分の行きたい企業に直接出向くほうが何倍も意味があるとおもう。これから何年も勤めることになるであろう会社だ、妥協はせず、選ばれるのではなく選んでほしい。あとは気合いと運である。自分という人間を素直に表現すれば、飾らずとも、認めてくれる会社は必ずあるのだから。

### 「教員採用について」

教育学部就職指導委員会  
山下 三郎



近年子どもの数が激減していることが原因して教員需要が減り、教育学部の学生達は卒業しても、先生になるのが極めて困難な時代になりました。ほんの数年前までは富山県に限っていえば400名台の需要だったものが、300名台、200名台と減り、今年度は134人になってしまいました。来年度は100名と予測されています。北海道や東北の一部、沖縄等の例外を除いては殆どの都道府県が同じ傾向にあるといえます。全国的に教員養成学部は大恐慌をきたしているということになります。本学教育学部では教員免許取得を義務づけられている学生数は情報課程の40人を除く200名ですが、今年度はこのうちの120名が教員採用試験を受験しました。60%の受験率ということになります。このうち、正規採用者は全部で18名でしたが、このうち地元富山県の受験者数は約70名、合格者は7名と惨憺たるものでした。しかし今年度は過年度の卒業生を多く採用されたので、合格者のうち富山大学卒業生の占める採用率は例年並ということになります。過年度の卒業生というのは、殆どが臨時任用講師とよばれる現職を体験した人達を指しています。これらの人達は、一年、二年と臨時任用講師を重ねた人達で、講師三年というのもめずらしくはありません。昨年の当教育学部卒業生の教員採用率はこの臨時任用講師を含めて42%でした。たとえ卒業年度に正規採用にならなくても臨時任用講師をしながら頑張ることが必要のようです。

### 「強い意志こそ教師への道」

教育学部小学校教員養成課程  
4年 遊道 陽子



昨年の、厳しい就職戦線では、誰もが、わらをもつかむ思いをしたに違いありません。教員も過去最低の狭き門となりました。

教育学部に入学されたみなさんは、過去に一度でも、かすかにでも、教師になろうという思いや、あこがれを抱いたことがあるはずです。けれども、途中でその情熱を失ったり、教育実習で自信がなくなり、本当に自分が教師に向いているのか悩んだりしているうちに、初心を忘れてしまう人が多くいるようです。

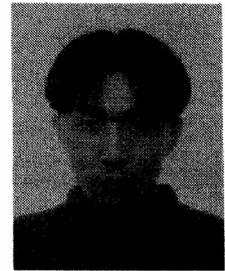
私は、初心を大事に持ち続けることを、みなさんに強く望みます。大学4年間に得たものだけが教師の力量を決定するのではなく、将来、進んでいく道で、失敗を何度も繰り返しながら学びとっていくところが大きいのです。一時の不安や迷いで、教師の夢を諦めてほしくはありません。

私の担当教官は、「勝負を懸けられるのも、この先、就職と結婚の2回だけだよ」と私によく冗談を言われました。この言葉は、普段の勉強中も試験当日も、不思議と私を奮い立たせ、「必ず教師になる」という強い意志を湧かせてくれました。

みなさんも、やるときはやる、自分の意志を貫く思いで勝負に挑んでください。

## 「面接試験」

教育学部 理科  
地学専攻 曾出昌宏



私はこの春から岐阜県教員として勤務することになりました。私が採用されるにあたり、重要であったと思われる面接試験についてお話しします。

面接試験というのは、高校、大学受験での暗記力中心の試験とは異なり、教師となる上で最も重要な教育に対する熱意、教師としての適性・人間性が評価されるのです。面接試験が初めてである私には戸惑いもありましたが、本番では緊張することなく、自信をもって自分の全てを出し切ることができたと思います。

その大きな要因として教育実習と卒論が挙げられます。教育実習の中で多くの先生方や友人と「教師のあるべき姿」について考えながら教育実習を体験できたことで自分の教育観を強化でき、卒論では、長期にわたる地質調査、研究の過程で主体的・計画的に追求する喜びも得られました。それらが自信につながったと思います。また、自分が在籍していた地学ゼミの先生方や仲間と家族的雰囲気の中で、卒論の話のみならず、理想の女性像などについてよく議論したことが、自らの人間性を高める上でも効果的に働いたように思われてなりません。

就職活動をしていくにあたり、もちろん就職のための受験勉強も必要だと思いますが、忘れてはならないもっと大切なものがあるように思うのです。それは長期的な展望に立って自らを高めること、つまり、充実した大学生活を送ることそのものではないでしょうか。私も卒業後はこの富山大学での生活を貴重な財産として、さらなる自己発展のために頑張ります。

## 「経済学部の現状」

経済学部就職指導委員会  
副委員長 居林次雄

バブル経済華やかかなりし頃は、富山大学の学生は数多くの企業の内定を抱えて、どれにしようかと迷う程、就職先に困ることがなかった。

それがここ両3年に至って、日本経済が低迷するようになってからは、めっきりと求人数も減り、就職内定も段々と遅れるようになって来ている。

平成6年度の富山大学卒業生の就職内定状況をみると、全学では男子学生88.8%、女子学生79.5%で、合計では84.7%の内定率となっている。

卒業間近かになって未だに就職先の決まらない学生が10%強も残っているということは、この数年来、なかったから、今や就職は困難になりつつあると言える。

それでも求人数全体でみると、卒業生のうち進学希望などを除くと就職希望者数よりも求人数の方が多いのであるから、ぜいたくなことを言わなければ、どこかの企業に就職できる状態であるから、未だ

## 卒業特集

若干のゆとりも感ぜられる。

求人数の方が卒業生の数よりも上廻っているのは、好景気の時に一人も大学卒業生を採用できなかった中小企業が、この不況期にこそ人材を集めようという意欲に燃えて、積極的に富山大学の卒業生を求めているからである。

どんな大企業も当初は中小企業から次第に成長していったわけであるから、学生諸君は積極的に中堅企業に就職をして、自らの活躍の場を拡げていくようにするのも得策である。

どの学部をみても、男子学生の就職内定率よりも、女子学生の就職内定率の方が低い。これは男性中心の社会情勢を反映してしているとも言える。とくに女子学生は、総合職として男子学生と同等の立場に立って、企業で一生働き続ける、という意欲を持つ人が少なく、結婚や出産を機に企業から退職してしまう人が多いので、このような女子学生の就職状況をみて、企業が女子を男子並みの幹部として研修、教育することに疑問を感じている点が挙げられる。

そういう中途退職をした先輩の実績が、後輩の女子学生の就職を困難ならしめているとも言えよう。したがって4年制大学を卒業した学生は、男女を問わず、企業で一生働き続ける心構えが必要であると思われる。

次に本年の就職状況をみると、就職希望先に入れなかった学生で、留年をして翌年の就職に備えるという例も、かなりある。しかしながら、日本経済の先き行きは必ずしも楽観できず、何年待っても景気は回復しないおそれも出て来ているので、余りにも特定の大企業にこだわったり、職種について不平を言っていると、何年経っても思うところに就職できない危険性を内蔵している。やはり分不相応な希望を描いていないか、反省する必要もあろう。

### 「大学生として就職活動を行うこと」

経済学部

経営法学科 岡田勝伺

以前、就職活動を行っていた時に企業個別セミナーがあり、担当者に次の様な質問をした覚えがある。「どうして御社では大学卒の採用を主体になさっているのですか。」

確かに就職活動を行う上では必要ないように思われる内容だが、その時は何となく気になり、つい口に出してしまった。

その質問を受けた担当者は答えた。

「大学生は社会経験が豊富なので、大学卒の方を優先して採用しています。」

この様な答えを頂いた時には、そんなに意味も考えず納得してしまったが、後になるとその答えに対して疑問を抱くようになった。

それというのも、ある意味で社会と離れた存在である大学生が得る社会経験とはいったい何があるのかと考え始めてしまったからである。学園生活・クラブ活動・アルバイト等様々な事を挙げてみたが、結局自分の納得できる答えは見つからなかった。

以上が自分の就職活動の一体験談だが、これを読んだ学生の大半はそんな事は別に関係ないと思われるかもしれない。しかし、これだけは考えておいてもらいたい。自分はなぜ富山大学に入学し、大学生として就職活動を行っているのかという事を。

この事は大学に入って何をしてきたか、どうして当社を選んだのかというありがちな質問にも関わってくる。そうした事からも是非自分なりの答えを見付けてほしい。

## 「理学部の場合」

理学部生物学科  
就職委員 鳴橋直弘



日本経済の構造的不況によって、2、3年前より理学部学生の就職状況も悪くなっている。学部就職率は、平成3年度は99%、4年度は97%、5年度は89%、6年度は1月末で82%とだんだんに下がっている。私の所属する生物学科では、3年度から6年度にかけて、求人数は176,106,51,24件と急激に下降している。かつては、二股や三股をかけていて、内定を2、3カ所からもらい、「早く1つに決めて他を断われ!」と学生に言ったことを思い出す。

本年度もう始まっている。新4年生になる学生は例年のごとく企業に資料の請求のハガキを出しているようだ。院生の場合2月中旬に企業セミナーがあって、下旬に入社のための筆記試験がある企業もある。学生諸君に言える決定的対策はないけれども、あえて述べると、①出来るだけ早く、また、積極的に就職活動をする。②企業の資料を集めたり、業界のことをよく調べる。③学部や各学科に来ている求人広告だけではなく広くあたる。特に、以前実績のあった企業にはアタックする。④面接では、自分の考えや自分のやりたいことをまとまりよく伝え、また、自己PRも忘れずにおこなう。⑤各学科の就職委員を利用して、情報を得る。

就職したい企業の内定を早くもらって、落ち着いて卒業研究をやってもらいたいと思っているのは私だけではないようだ。

## 「あきらめずに頑張って!」

理学部生物学科  
4年 吉田直民



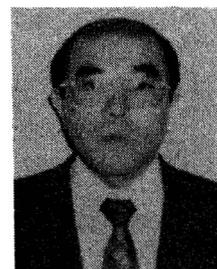
私は卒業研究の関係で活動を始めるのが遅く、会社の資料請求を始めたのは5月上旬でした。元来、教員志望だったので、就職活動は滑り止め程度にしか考えていなかったのです。しかし、教員採用の現状がいかに厳しいものであるかを知り、本格的に就職活動を始めました。周囲の友人はすでに資料請求、会社訪問を数件行っており、このままでは就職浪人になってしまうのではないかとあせりを感じていました。

私は卒業研究として遺伝子解析を行っていたので、就職するなら医薬品業界で、と考えていました。研究開発系に進めたら大学で得た知識が生かせるのではないかと考えて、いくつかの医薬品会社を回ってみました。しかし、すべての会社で「うちでは薬学か、化学出身しかとらない」と言われました。ある企業では「大学院生しか研究職としては採用していない」ということで、まともに説明を聞けず、門前払いされました。富山県は医薬品関連企業が多く、県内で就職する分には、理工学部、特に生物、化学系は就職しやすい環境であると思われます。しかし、いくら企業がたくさんあっても、企業側が人員削除していたり、条件が厳しかったり……と、そううまくはいかず、妥協せざるをえませんでした。

企業からは厳しいことを言われましたが、最終的に、私は自分の思い通りに医薬品会社に就職することができました。今年度も昨年度同様に厳しい就職戦線になるだろうと思いますが、あきらめないで頑張ってください。

## 「発想の転換」

工学部電子情報工学科  
教授 山淵 龍夫



バブルがはじけて不況の嵐が日本経済を襲った。就職状況に与える影響を、現在、日本列島をおびやかしている地震の震度で表現すれば、われわれ教職員と学生にとっては、せいぜい震度3止まりではないだろうか。

それでは、電子情報工学科を襲った被害の状況を報告しよう。電子情報工学科は、電気工学科と電子工学科を母体として情報系を加えた形で改組された。求人活動は内部で運用されている電気、電子、情報の各コース毎に独自で行われる。情報コースの4年生は44名で、修士2年生は11名である。4年生の半分近くが大学院に進学することを考えると、就職希望者は35名程である。工学部では、学科に来た求人依頼に応じて、大学推薦と言う形で就職が決まる場合が圧倒的に多い。そこで、求人件数がポイントとなる。学科への求人件数は、今年は230社で、工学部全体に来たものも含めると400社になる。就職希望者は35名であることを考慮すると、十分な数の様に思われるかもしれないが、職種、勤務地をも含めた学生諸君側の判断が加わるので、行きたい会社は多くは残らない。今年の特徴は求人数が少ないため、がっちり試験をされ、かつ厳しく判定されることである。1回目で内定をもらえないと、2回目は入り易そうな会社でもハードルが高くなり、時期が遅れる程不利になって行く。ほんの2年前は、求人数も多く、ほとんどの会社は面接だけで、1回目で内定が得られていたことを考えると、天と地程の変わりようである。

これ乗り越えるには、自分を磨くしか有効な手段はない。不況時こそ、自分を鍛える好機と、発想を転換してもらいたいものだ。

# 私の研究室

## 哲学・人間基礎論研究室

(人文学部)



哲学コース3年 大國正明

「人生とは何か？」これを話し出すと一生かかっても話し切れない、というより分からないのでここでは述べません。では「愛とは何か？」これも正解は分かりません。しかし、これらの事は誰もが考え、悩む事です。そして、何かしらの答えを導き出す。これが哲学であると私は思います。

我がコースは、学組改変により「哲学コース」から「人間基礎論コース」へと名称を変更し新たな歴史の船出をしました。教授陣はバラエティーに富み、日本・東洋・西洋と学生たちの雑多な興味と好奇心に対応できるようになっています。学生たちがこのような恵まれた環境に身を置きながら、教授陣の要望や期待に応えているかと言えば…。

ところで、「哲学」という言葉の響きには、何かしら重苦しく、難解で、わけのわからないというイメージを持つ人が多いのではないのでしょうか。そのためかどうかはわかりませんが、毎年コースに来る学生が少なく活気に満ちた教室であるとは

言えません。しかし、我が教室に来る学生は、よく言えば、問題意識に溢れ一人で二人前三人前の人間で、悪く言えば、変わり者、アウトサイダーの人間が揃っています。人数が少なくても、個性の強い人間が多いせいか充実はしています。誰かが発した素朴な疑問や質問に対して、自分の考えや答えを忌憚なく議論し、衝突を繰り返しながらも何かを求めています。当たり前なことだと言えばそうかも知れませんが、このような事が嫌いではなく、むしろ好きで、また飽きない人間が集まっているのが我がコースの敢えて特筆する特徴であると言えます。「哲学・人間基礎論コース」の演習室に話し声の絶える事はありません。そしてまた、日々の授業や演習の時間は、難題に取り組む学生の姿があるのも事実なのです。本を読み、資料を調べ、辞書を捲る、このような地味な作業が私たちの生業で、そして何よりも「考える」事が最も必要とされる事なのです。

## 幼児心理学研究室（大石ゼミ）

（教育学部）



教育学部 幼稚園教員養成課程

4年 合 田 麻由美

こんにちは。幼児心理学研究室です。我が幼児心理学ゼミは幼稚園教員養成課程に属しています。幼稚園教員養成課程は各学年30名ずつで構成されており、この30名が3年生の後半になると、①幼児教育の歴史や教育要領を研究する幼児教育学、②幼児の活動を研究する保育内容、③幼児の姿を心理学的側面から研究する幼児心理学の3つの道にそれぞれ進み、③の道を選んだ同士により幼児心理学ゼミが誕生するのです。

さて、それでは我がゼミの活動を紹介します。まず5月には我がゼミのボス、大石先生宅でバーベキュー大会。芝生の庭にアットホームな大石ファミリー。台風なみの強風で焼いてたものが飛ばされたにもかかわらず、帰りには「理想の家庭だわ〜」と皆がため息をもらす楽しい一時でした。8月にはゼミ旅行。今年は車で佐渡ヶ島へ。嫌な卒論の中間発表は初日にさっさと終わらせて、たらい舟に乗ったり、砂金をとったり花火をしたり思いっきり遊びました。卒論が終わった2月には志賀高原スキーツアー。学校におられないと、

「スキーかな？」と疑われる程（注：本当の時もある）スキー大好き（し〜ん）な大石コーチのもと、天候にも恵まれ、思いっきりパウダースノーを満喫しました。これに幼稚園課程の行事を加えると楽しいイベントが目白押しです。

えっ？ 遊んでばかりですって？ 何をおっしゃいますか、学生の本分は勉強です。やる時はやる大石ゼミ、小学校教諭の免状をとった人数も教員採用試験の受験者数も幼稚園課程No.1を誇る真面目さで卒論にも命をかけています。朝早くから幼稚園に足を運び（これが1番つらい）夜遅くまで学校に残る毎日で、徹夜をしたこともしばしば。テーマは幼児のことばに関する研究や幼児の兄弟関係による影響についての研究など様々ですが、将来良妻賢母を目指す我がゼミ生にとってはどれもこれも大切でためになるものばかりです。

こうして毎年3月になると、一皮むけて大人になった(?)ゼミ生達は、社会へと巣立ってゆくのでした。そして4月。新大石ゼミの研究室からはバーベキュー大会の相談の音が……。

## 経済法研究室

(経済学部)



経営法学科4年 大 沢 由香利

あれは2年前の春、数奇な運命のいたずらによって私は滝川ゼミの一員になった。俗に滝川ゼミに志願したともいうのだが。

まず私たちのゼミの題目は経済法である。当時先生は1学年しか採っていなかったため、私たち現4年生と先生の計10名でスタートし、先生のほとぼしる情熱を一身に受けることとなった。大教室での講義に慣れている私たちにとってそれはなかなかスリリングな出来事の到来であった。少人数・密室・月曜4限目・先生の登場、これらのキーワードは無情にもゼミであてられる回数が多いという恐怖を意味した。大体において大学生活であてられる経験がほとんどなかったのだから。しかしながらこのスリリングなゼミのお陰で、私たちは社会で実践的に使えるレポートの作成方法や報告の仕方を学ぶことができた。今では3、4年生合同の16人プラス先生の構成になっている。これがゼミ本来の概要である。

次にゼミの役割としてこれまた大切な人間交流の場を紹介したい。ビッグイベントとしては夏・

冬の合宿が、またコンパがある。夏の合宿はテニスや散策（先生が主にしている）など健康的である。宿は先生お気に入りの民宿「あすなろ」に決まっている。夕食は民宿の人に野外にセッティングしてもらって電灯を灯して楽しく食べるのだが、楽しさに水を差す出来事が決まって起こる。犯人は“虫”である。夏の夜に外で電灯を灯すとありがちな飛んで火に入る夏の虫状態であった。冬の合宿は先生は不参加であったものの、男の子たちが丁寧に教えてくれたのでとても有意義であった。節目にあたるコンパではゼミの時間だけでは知ることのできないそれぞれの一面を知ることができたりする。ちなみに先生はお酒が強く、ああだこうだ言いながら顔色ひとつ変えずに飲み続けておられる。

最後に私たち4年生もお陰様で就職も決まり、学校というものにさよならするわけだが、ゼミ仲間としてこれからも何らかのかたちで続けさせていきたいと思う。



## 地球進化学講座

(理学部)



理学研究科地球科学専攻1年 小西博美

地球科学科には「地球進化学講座」と「地球圏物理学講座」の2講座があり、我が地球進化学講座には5人の先生方がおられます。堀越先生は鉱床地質学、小林先生は火山層序学、氏家先生は火山岩石学、竹内先生と大藤先生は構造地質学、と同じ講座内でも先生方の専門はそれぞれ異なり、研究分野は多岐にわたっています。現在の学生数は、少数精鋭で、4年生5人と院生4人です。学生は、ある一人の先生に「つく」というより、指導教官を主に、全ての先生方に指導を受けるという感じの研究室です。

卒業研究では特定の調査地域（フィールド）での地質調査を要求され、それは日本各地、ときに外国であったりします。多くの場合、フィールドを実際に歩いて、地質図を作成し、岩石・鉱物の分析や化石処理を行っていきます。

それでは、地球進化学講座の十八番、フィールド調査の醍醐味(?)について、学生にインタビューしてみましよう。

：辛かったことや恐かったことは？

S君『1mの高さの滝から落ちたこと』

K君『山中で激しい夕立に会い、沢が増水して戻れなくなり、結局、野宿したこと』

T君『子連れの熊に出会ってしまったこと』

複数回答『蜂の攻撃を受けたこと』

私の場合は、毛虫が降ってきた時でしょうか……

：それでも調査を続けられるのは何故？

T君『崖を登ったり、沢の水に足を入れたり、普通の人にはできない体験ができるし、時々、非常にいい露頭（岩石や地層が地表に露出しているところ）に出会えるから』

K君『自分の予想と、実際に歩いて得た結果との“ジグソーパズルを組み立てていく”ようなおもしろさがある』

匿名希望『やらなければ、おこられるから』

地質調査という、あまり派手ではない、地道な作業を主とする講座ですが、何事も「基本」を押さえることは重要なことです。日本列島の形成についての説は、詳細な地質調査と様々な物理・化学的手法、大胆なアイデア等によって幾度も塗り替えられてきました。富山大学での私たちの研究が、日本列島だけではなく地球の進化についての“常識”を一変させるような時がくるかも知れません。

## 生物反応化学Ⅱ講座

(工学部)



大 窪 栄 範 渡 辺 真 弘  
福 島 和 彦 山 本 陽 一

はじめまして、生物反応化学Ⅱ講座です。当講座は、作道先生、島崎先生、森田先生、吉村先生、小野先生という、時には厳しく、時には優しい5人の先生方のもと、大学院生19人、学部生12人の総勢31人の学生が日夜実験に勤しんでいます。また、毎週、文献紹介、勉強会、研究報告会を行い、精力的に研究生活を送っています。

この講座には4つのグループがあり、主にヘテロ有機・無機化合物とペプチド化合物について研究を行っています。2つのグループがヘテロ有機化合物の中の含硫黄有機化合物について研究を行っています。硫黄というと、あの温泉地でのにおいを思い出す人が多いかもしれませんが、私たちの日常生活の場にも数多く存在しています。例えば、普段口にしてているダイコン、ネギ、タマネギ、ニンニクなどに含まれる辛味成分や、コーヒー、シイタケ、アスパラガスなどの香りの成分などはほとんどが有機硫黄化合物からなっています。ちなみに、日本人はダイコンやネギ類などから世界で一番多く硫黄を摂取していると言われていました。この様に我々になじみ深い含硫黄有機化合物の間であるチアザインやスルフェン酸という化合物を新規に合成し、その性質等について研究してい

ます。1つのグループは含窒素、および含リン有機・無機化合物の性質について研究しています。含窒素有機化合物の中でもメラミンやその誘導体を扱っています。メラミンと言うとよく人にメラニン（皮膚が黒くなる原因）と間違えられますが、プラスチック製に見える食器（メラミン樹脂）の原料になっており、結構身近なものです。また含リン化合物も身近な製品から先端材料まで多くの分野での用途があり、生化学分野においても重要な役割を果たしていますが、その難燃剤としての用途に注目し、研究しています。1つのグループがペプチドについて研究しています。ペプチドとは、うま味成分として知られているアミノ酸が連なったものでタンパク質の構成要素となっています。主な研究テーマは、機能性ポリペプチドの設計およびその構造的な特性についての検討です。

堅いことばかり書いてきましたのでここからは、日々の活力を得るための恒例のイベント等の紹介をします。まず、春にはOBを招いてのバーベキュー、冬には講座全体でのスキーツアー、氷見での追い出しコンパなどがあります。

この様な講座ですので、気に入った人は一度のぞきにきてください。

# 留学生コーナー

## 思 い 出

人文学部人文学科

言語学コース 田 培 丹

長くもあり、短くもあった大学生活にもいよいよ終止符が打たれます。過ぎ去った四年間をかえりみますと、いろいろな思い出が、苦と楽が、喜びと悲しみが、ひとつの色模様の中に織りこまれて浮かんでまいります。

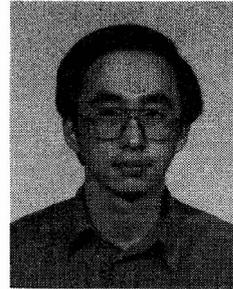
大学に入ったばかりのころ、日本語学校の日本語とまったく違って授業をきいても、ほとんど聞き取れなく、アパートの大家やまわりの人々と話しても通じない状態だった。日本語の難しさをしみじみ実感しました。パニックになったわたしは、どうしようと焦って日本語がとてもこわいものと思いました。幸いなことに、クラスメイトや先生たちの助けによって、だんだん慣れてきた。または先生方はよく分かっていただき、励ましていただいて、卒業論文を仕上げ、いよいよ卒業するまでに至った。感謝の気持ちがいっぱいです。

そして、学校は留学生のために、見学や旅行や懇談会などを催していただき、多くの人と交流を深め、多勢の友達をつくることができました。単調な生活に、喜びと楽しさを増えることができました。

最後に大学のこの四年間、ただ学問や思い出だけではなく、さまざまな人々と出会いに通じていろいろなことを学び、これからもそれを生かして国に帰っても、わすれずに少しでも、国際交流に貢献できるように頑張りたいと思っています。



## 日本と私



経済学部

経済学研究科 蘇 歴 銘

1984年7月に、私は吉林大学経済学部を卒業した後、同年中国国家計画委員会（北京）で就職しました。長い間、私は留学することは考えたことはありませんでした。この期間、友人は次々と留学しました。送別の時、友人たちはいつも私が若いうちに国外へ行って視野を広めるべきだと勧めましたが、私は婉曲に断り、ずっと国内で着実に、努力して仕事をしようと考えていました。

1989年6月以後、中国の経済発展は大変沈滞しました。しかしまた、ある兆候が示すように、今後の中国の改革・開放はさらに発展するだろうと思います。経済理論をもっと勉強し、海外での経験を得るために、留学したいという願いが私の心に芽生えました。1991年初め私は日本へ留学することを決意し、筑波大学に出願しました。その時、周囲の友人たちは大変驚きました。私は日本語を勉強したことはありませんでしたが、日本の映画と書籍を通じて、私は一衣帯水の隣邦である日本に対して早くから興味を持っていました。日本には絢爛たる桜の花と、華麗な和服、神秘的な茶道があり、また、戦後の高度成長の奇跡があり、私は大変憧れていました。中国からの私費留学生として、私は夢を持って日本へ来ました。

1991年9月に私は私費留学生としての生活を始めました。翌年の夏に私は幸いにもつくば市で『賃金決定のマクロ経済分析』の著者である、富山大学松川滋教授との知遇を得ました。その後、私は富山大学大学院の試験を受け、合格しました。93年4月から、松川教授の指導の下に勉強と研究を始めました。この2年間、立派な専門家として松川滋教授には厳格な御指導を賜わり、常に情熱を絶やさずマクロ経済学と労働経済学などを語って頂きました。これらは富山の山、富山の水、富山の人間とともに、私の人生のなかで忘れることができません。

私は特に日本での留学生としての生活を貴重な体験と考えています。この間に、私も定期的に中国の雑誌と新聞に日本の経済論文を翻訳し発表しました。成果として『21世紀：所得格差の解決』論文集と『水のような歲月』詩集は95年に中国北京で出版予定です。私の私費留学の生活は大変苦しいのですが、深く日本社会を理解することができ、経験を蓄積し、中国の経済発展のため、中日友好のために微力ながら尽すことができれば、私の本望とするところです。

## 旧工学部のシンボル

(門柱・シャンデリア)

工学部教授 嶋尾 一郎

工学部入口近くの道路脇に石積の門柱が一本置かれており、「富山大学工学部」と「大学院工学研究科」の銘がある。これは高岡市にあった旧工学部学舎の門柱の片方で、工学部がこの敷地に移転した折に、環境整備の一環として移設されたのである。上部の照明部分はその際補修された。なお門柱の他の一本は経済学部に残されている。

また工学部の共通講義棟の階段上り口に古風なシャンデリアが陳列しており、つぎの説明が記されている。

「これは富山大学工学部旧講堂に装置されていたシャンデリアの一つである。この講堂は昭和二年に完成したもので、フランス様式に建造され内部二階には三方に廻廊を備えた極めて優美な建物であって建築界では高く評価されてきた。

正門より築山を置いて建ったこの壮麗な講堂は学園のシンボルとして広く親しまれた。爾来様々な行事が催され若人が青春を謳歌した思い出多き場であり、また地域文化の高揚にも大きく貢献した。

工学部移転を機に往時の面影を偲ぶべく、ここにその移設を行った。

昭和61年10月 富山大学工学部同窓会

工学部同窓会の移転記念事業の一つとして移設

されたものである。この講堂は大正十四年春開校された旧制高岡高等商業学校（小学校6年、旧制中学校5年を卒業して入学し年限3年）のものであった。いうまでもなく、高岡高等商業学校は経済学部の前身であり、昭和初め本県の数少ない高等教育機関の一つとして地元の強い要望に添って設立された（その経緯は経済学部五十年史に詳しい）。

戦時中昭和十九年に高岡工業専門学校に転換しそして富山大学工学部となり、40年余り工学部の講堂として使用されてきた。

この講堂はフランス人技師の設計になると言われ、木造銅板ぶきのゴシック風建築で、廻廊式の二階となっており、長椅子が配列され、立派なピアノも置かれていた。壮麗で格調高いこの講堂は昭和初期の富山県における代表的洋風建築であった。

工学部の移転が始まって卒業生はじめ広くその保存の声が上がり、高岡市などで種々検討されたが、建物の損傷老朽化がひどく、また活用法や維持の経費の点から保存は断念せざるを得ず、解体取壊しすることになった。

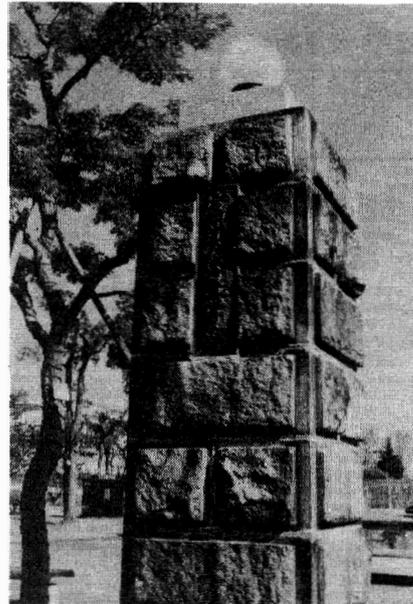
そこでその天井を飾った二基のシャンデリアの一つを記念に移設したものである。周りの円柱に

ある小型のものは廻廊柱に装備されていたものの一部である。取付天井の造形、黒ずんだ金具にその風格が読み取れる。

年月は流れ、古き物は新しいものに代る。古き消え去るものへの愛着はしばしその名残を求めるのが心情であろう。四十余年に渡る工学部旧学舎の中で卒業生はじめ多くの方々に共通の思い出として門柱とシャンデリアが選ばれた。時折学校を

訪れられる卒業生の懐旧を誘うだけではなく、学生諸君にも先輩の親しんだものに触れ、歴史の流れを受け止める機会となることを願う。

余談となるが、小生の室から眺められる三本の槐も移植後十年近くになり立派に生長した。これは広岡修二先生が苗木を旧工学部地内に植えられたもので、また春に新緑が奇麗であろう。



# 学生部だより

## 平成6年度後期授業料免除について

平成6年度後期授業料免除者の選考が、11月14日に開催された授業料等減免選考委員会で行われ、次のとおり決定しました。

なお、授業料免除及び奨学金を希望するうえで、たずねたいことがあれば、厚生課又は各学部の学務係（経済学部は学生係）へ相談してください。

区 分	出 願 者	免 除 許 可 者	不 許 可 者
学 部	373 人	361 (66) 人	12 人
大 学 院	76	74 (13)	2
計	449	435 (79)	14

( )内は、半額免除許可者で内数



## 保健管理センターだより

### 健康診断は必ず受けましょう！

…論より“証康”春の定期健康診断…  
(証=あかし 康=体が、たっしやなこと)

定期健康診断がいよいよ4月中旬から始まります。残念ながら昨年の受診率は平均50%にもとどかず、また、毎年受診者は1・4年生が主で、2・3年生では極端に受診率の低下が見られます。

健康診断を受診することは、普段気づかずにいる隠れた病気や異常を早期発見するためのものだけでなく、私達にとって健康というものを改めて考える機会になります。

健康とは、あたりまえに存在するものではありません。健康は自分で管理していく必要があります、そのためにも、自分の健康状態を知ることが重要です。

また、健康診断は学校保健法施行規則に規定され毎年行うものと義務づけられていますので、必ず受診しなければなりません。

健康診断を学外の医療機関で受ける場合お金が必要ですが、学内での健康診断は無料です。この機会を大いに利用し、自己の健康管理に努めてください。

なお、健康診断で行われる検査は、スクリーニング検査といって身体の中に病気の兆候があるかないかを大まかに判断する『ふるい分け』検査です。健康診断の結果だけで発見できない病気もあります。そのため異常の疑いがある場合は精密検査が必要となります。

☆『再検査票』をもらった人は必ず再検査を受けましょう。

☆『要精検』といわれたら迷わず受診しましょう。

☆セルフコントロールの指標にしましょう。

### 定期健康診断日程

月日・時間	学部・学年	実施場所	検診科目
4月12日(水) 13:30~	人文・理学部 (1年生)	学生会館	内科・血圧・検尿・計測(身長・体重)
	経済学部 (1年生)	経済学部	
4月19日(水) 13:30~	教育学部 (1年生)	学生会館	
	工学部 (1年生)	工学部	
4月26日(水) 13:30~	教育学部 (2・3・4年生)	学生会館	内科・血圧・検尿・計測(身長・体重)  ≪卒業・修了予定者について、胸囲測定及び 眼科診察・視力検査・色覚検査を行う≫
5月10日(水) 13:30~	工学部 (2・3・4年生)		
5月17日(水) 13:30~	人文・理学部 (2・3・4年生)		
5月24日(水) 13:30~	経済学部 (2・3・4年生)		

- ☆聴力測定
- ・対象→卒業・修了予定者及び大学院進学予定者
  - ・日時→5月29日～6月23日 13:30～15:00
  - ・場所→保健管理センター

#### <注意！>

定期健康診断で、指定日に都合が悪い場合は、保健管理センターに連絡のうえ別の日に受診して下さい。予定日以外に、改めて健康診断は行いません。原則としてすべての健康診断を受けていない学生には保健管理センターからの証明書は出しません。

『人生にとって健康は目的ではない。しかし、最初の条件なのである。』

武者小路實篤

# トピックス

## 住んで10カ月目の神戸で

神戸大学理学部地球惑星科学教室

修士課程1年 堀田 暁子

(富山大学理学部卒)

このまま建物が地中に沈んでゆくのではないか、そんな揺れだった。潜り込んだ炬燵から身を起こすと、辺りは真っ暗。震源は？ 懐中電灯とラジオを探し、電波を拾うまで約20分。普段から準備しておくべきだったと後悔。すっかり体が冷えてしまう。イヤホンをしながら、再び炬燵に潜る。神戸だけ震度を言わない。しばらくして情報が入ってきた。死者もでている。寒いなぁ。震度を繰り返すラジオを耳に、再び寝入ってしまった。

電話の鳴る音。外はもう明るい。「寝てる場合じゃないぞ。外見てみろ」。セーターのまま寝ていたの、そのまま外へ出てみる。空の色が違う。何本もの煙筒が太陽を隠している。実家に無事を連絡する。母は私より状況を把握していた。ドアを叩く音。講座の先輩は、私の部屋の中が何とものを見て、逆に驚いていた。大学はひどい状態だという。出掛ける前に部屋の中をチェック。電気、水道、ガスは止まっている。他は……。スピーカーの上からトトロが落ちたぐらいだった。

大学まで徒歩7分。高台にある大学近辺は信号が止まっているのと、道路にひびがはいっている状態で、建物は一見被害はない。中に入る。確かにひどい散らかり様だ。割れた食器が散乱し、本棚には一冊も本がない。平行四辺形に歪んだ棚は、もう一步でコンピューターを押しつぶすところ。分解したり、サンプル棚の下敷きになった測定機器。講座の方々の話。下宿の裏の家が燃えていた。

寮はガス臭い。大学に居て助かった。交通機関はすべて止まっているため、教授は甲子園から歩いて大学へ。途中、瓦礫の下から助け出されている人を見たという。ラジオと小型テレビからは、火災、倒壊、百人単位で増える死者の情報。地鳴りと共に頻繁にくる余震。暖房がなく、寒い。少し頭が痛い。下宿に戻り、休むことにした。13時すぎに帰ると電気も水も使えたが、いつ止まるか分からない。残り物を食べ、薬を飲んでしばらくすると頭痛も治った。今のうちにと、ご飯を炊いておにぎりにし、南瓜を煮て講座に持っていった。暖かい食べ物は喜ばれた。何人か私の下宿に泊ってもらうことになった。帰る途中、暗い神戸の夜景を初めて見た。やはり水道は止まってしまった。

朝は大家さんがおにぎりを下さった。講座にはカセットコンロが持ち込まれていた。昨日のうちに汲んでおいた水を沸かし、暖かいココアが飲めた。給水車が山手の小学校にきていた。並んでやかんに一杯頂いた。物資が足りない。スーパーには長い列。余震も続いている。実家に帰ろうかと考える。夜はもらったレトルトカレーと、大家さんからおにぎり。初めてマンションの人達と顔を合わせる。

翌日、荷物を極力減らし、食べ物を持って下宿を出る。約15kmの歩き。実際目で見て、初めて多数の死者の意味が分かる。屋根だけの家もひどいが、ただの瓦礫の山にしか見えない家も多い。JR

六甲道駅は入口が無い。道路になだれ込んだ鉄と木とコンクリートで2号線が見えない。今にも降りてきそうなビルの窓ガラス。折れた電柱。家の柱を燃やして暖をとる人がいた。阪急電車の線路を歩いた。夙川あたりから通行禁止。高架が落下していた。私の見た限りでは、この辺りが一番被害が大きい。途中、パンを焼くいい匂いがした。店

頭のガラスにガムテープを貼り、傾いた棚にクッキーが並べられているのが見えた。西宮北口に近づくにつれて人が増える。“あと15分、ガンバレ”の張り紙。みんなそれを見て、また歩き出す。到着。無事神戸脱出となった。

最後に親へ一言。高い家賃払ってくれて、ありがとう。



▽▲▽▲▽ 学園ニュース編集委員 ▼▲▽▲▽

学生部長 浜谷正人  
人文学部 中村雅之  
" 高安和子  
教育学部 竹浪聰  
" 遠藤幸一

経済学部 駒城鎮一(顧問)  
" 白石俊輔(顧問)  
理学部 川崎一朗  
" 小松美英子  
工学部 女川博義  
" 杉本益規